

第 1 6 5 9 回島根県教育委員会会議 議題書

令和 7 年 3 月 10 日(月)
日 時
13 時 30 分～

第 1 6 5 9 回教育委員会会議議題

期日 令和 7 年 3 月 10 日 (月)

議 題	
— 公 開 —	
(議決事項)	
第42号 令和 8 年度島根県公立高等学校入学者選抜の改善について (教育指導課)	———— 1
(報告事項)	
第77号 令和 6 年度 2 月補正予算案 (3 月 5 日上程分) の概要について (総務課)	———— 2
第78号 令和 6 年度島根県学力調査結果概要について (教育指導課)	———— 3
第79号 令和 7 年度島根県公立高等学校入学者選抜における一般選抜の受 検状況について (教育指導課)	———— 4
第80号 令和 7 年度特別支援学校高等部及び専攻科の合格者数について (特別支援教育課)	———— 5
— 非公開 —	
(議決事項)	
第43号 教職員の懲戒処分について (総務課)	———— 6
第44号 令和 7 年度教育委員会事務局等職員 (管理職) の定期人事異動 (事務職員等関連分) について (総務課)	———— 7
(承認事項)	
第 7 号 令和 7 年度県立学校教育職員 (管理職) の定期人事異動の一部 変更について (学校企画課)	———— 8
(協議事項)	
第15号 市町村立学校長及び県立学校長の管理職手当区分について (総務課)	———— 9
(報告事項)	
第81号 令和 7 年度公立学校教職員定期人事異動について (学校企画課)	———— 10

令和 8 年度島根県公立高等学校入学者選抜の改善について

1 現状と課題

- 公立高等学校入学者選抜は、出身中学校等の校長から提出された個人調査報告書（調査書）及び学力検査成績等の資料をもとに受検者の能力・適性等を判定して選抜している。

（個人調査報告書と学力検査の比率）

各高等学校（学科）で、80:20、70:30、60:40、50:50、40:60 の中から選択し決定

- 個人調査報告書の記入に当たって、不登校生徒等長期欠席者については、中学校等での学習の見取りが十分にできないため、資料が整わない（一部教科の評定なし等）ケースが見られる。

2 制度改善の内容

(1) 長期欠席者等に配慮した選抜方式の導入

① 趣旨

中学校等在学中に長期にわたって欠席した者等を対象に、志願する高等学校への主体的な判断による出願を促すことを目的として、一般入学者選抜及び第 2 次募集において個人調査報告書を選抜の資料として用いない選抜方式を、全日制・定時制課程の全ての学科における、次の②に掲げる対象となる生徒に対して導入する。

② 対象となる生徒

保護者が県内に居住している、又は県外に居住している場合であっても転勤等による一家転住等により保護者が県内に居住する予定のある中学校 3 年生（義務教育学校 9 年生）で、中学校等在学中に長期にわたって欠席した者等（※）のうち、高等学校入学後の学校での学びに意欲を持ち、当該選抜方式での出願を希望する者

※中学校等在学中に長期にわたって欠席した者等

病気、経済的理由をはじめ何らかの要因により登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあるため、いずれかの学年で欠席日数が 30 日以上の方、又は欠席日数が 30 日未満の方のうち保健室等の校内の別室や教育支援センター等への登校等により教室での学びが十分にできていない者

③ この選抜方式による募集人員

特に定めない

（全日制・定時制課程の全ての学科において、各学科の一般入学者選抜及び第 2 次募集それぞれの募集人員の内数とする。）

④ 出願の方法等

- ・ 長期欠席者等に配慮した選抜方式での出願を検討する志願者がいる中学校等の校長は、志願先として検討している高等学校長に事前連絡し、中学校等での状況等について、電話等により説明する。
- ・ 当該選抜方式での出願を希望する者は、一般入学者選抜又は第2次募集の受検願書の指定欄にその旨を記載した上で、志願者本人及び保護者の記載による「自己申告書」を添えて出願する。「自己申告書」には、中学校等在学中の学びの状況、高等学校での新たな学びに向けた抱負や将来の希望等を記述する。
- ・ 出願者が在籍する中学校等は、校長記載の「状況説明書」を出願先の高等学校に提出する。「状況説明書」には、当該志願者が長期にわたって欠席した期間・日数等の状況、中学校等在学中の学びの状況のほか、スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等学校内外での諸活動の記録を記述する。
- ・ 当該選抜方式で出願する志願者の個人調査報告書の提出は求めない。
- ・ 出願者数の発表に当たっては、当該選抜方式での出願者数を一般入学者選抜又は第2次募集の全体的出願者数に含めて発表する。（当該選抜方式での出願者数の発表は行わない。）

⑤ 選抜の方法

- ・ 学力検査、面接及び実技検査（実技検査は一部の学科のみ）の結果を選抜の資料とする。選抜における学力検査、面接及び実技検査の比率は、一般入学者選抜又は第2次募集に準じて行う。
- ・ 選抜に当たっては、当該選抜方式での出願者を除いた一般入学者選抜又は第2次募集の学力検査の合格ラインを参考資料とする。

⑥ 合格発表

選抜方式の区別をつけず、全て一般入学者選抜又は第2次募集の合格者として発表する。

(2) 個人調査報告書（調査書）の改善

出願者の出身中学校等の校長が提出する個人調査報告書の「欠席の記録」欄を削除する。

（理由）

個人調査報告書の欠席の記録については、これをもって直接の合否判定の資料とはしないこととしているため。

（関連する事項）

- ・ いずれかの学年で欠席日数が30日以上ある場合に提出することができる「自己申告書」については、これまでと同様の扱いとする。ただし、長期欠席者等に配慮した選抜方式で出願する場合は「自己申告書」の提出は必須とする。
- ・ 合格発表後、中学校等は不登校生徒をはじめ入学に当たって配慮の必要がある生徒の情報を速やかに高等学校に連絡するなど、中学校等から高等学校への円滑な接続が可能となるよう、密な連携をより一層徹底する。

令和8年度島根県公立高等学校入学者選抜**一般入学者選抜及び第2次募集において
長期欠席者等に配慮した選抜方式を導入します****新しい制度を導入した考え方**

中学校等に在学中に、何らかの理由により学校に通いたくても通うことができず、長期にわたって欠席した生徒等のうち、高校入学後の学校での学びに意欲を持つ者を対象に、志願する高校への主体的な判断による出願を促すことを目的とした選抜方式を導入します。

この選抜方式での出願をした場合、入学者選抜の合否判定の資料として、個人調査報告書（調査書）を用いず、学力検査と面接（一部の学科は実技検査も実施）の結果を選抜の資料とします。

新しい制度の内容**<対象となる生徒>**

保護者が県内に居住している、又は県外に居住している場合であっても転勤等による一家転住等により保護者が県内に居住する予定のある中学校3年生（義務教育学校9年生）で、中学校等に在学中に長期にわたって欠席した者等（※）のうち、高校入学後の学校での学びに意欲を持ち、当該選抜方式での出願を希望する者

※中学校等に在学中に長期にわたって欠席した者等とは？

病気、経済的理由をはじめ何らかの要因により登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあるため、いずれかの学年で欠席日数が30日以上のある者、又は欠席日数が30日未満の者のうち保健室等の校内の別室や教育支援センター等への登校等により教室での学びが十分にできていない者

<この選抜方式による募集人員>

特に定めない

（全日制・定時制課程の全ての学科において、各学科の一般入学者選抜及び第2次募集それぞれの募集人員の内数とする。）

<出願の方法等>

- ①中学校等の校長から志願先として検討している高校の校長への事前連絡
- ②受検願書に当該選抜方式での出願である旨を記入し「自己申告書」を添えて出願
- ③中学校等の校長は「状況説明書」を出願先の高校に提出
- ④当該選抜方式での出願者数は全体の出願者数に含めて発表

<選抜の方法>

- ・学力検査、面接及び実技検査（実技検査は一部の学科のみ）の結果を選抜の資料とする。
- ・選抜に当たっては、当該選抜方式での出願者を除いた一般入学者選抜又は第2次募集の学力検査の合格ラインを参考資料とする。

新しい制度に関する質問と回答

Q この制度を導入した目的は何ですか

A 中学校等に在学中に、何らかの理由により学校を長期にわたって欠席した経験を持つ生徒の中には、高校に入ってから、気持ちを新たに学校での学びに精一杯取り組みたいと思っている人がたくさんいると思います。そのような生徒が、ためらうことなく自ら志願する高校に出願できるように、個人調査報告書（調査書）を選抜の資料として用いない選抜方式を設けました。

Q どのような生徒が出願の対象となるのですか

A 中学校等のいずれかの学年で、何らかの理由により年間 30 日以上欠席日数があり、この選抜方式での出願を希望する生徒が対象となります。また、年間 30 日未満の欠席日数であっても、その出席日数の相当数が保健室等の校内の別室や教育支援センター等での学びであり、教室での学びが十分ではなかったと感じられる生徒も対象となります。いずれも在籍する中学校等の先生と十分に相談した上で、出願に当たっては、中学校等の校長先生から志願する高校の校長先生への事前連絡が必要となります。

Q この選抜方式での出願を希望すれば、誰でも出願することが可能ですか

A この選抜方式での出願の対象は、長期にわたる欠席等によって教室での学びが十分にできていない生徒となります。出願を希望する場合、中学校等に在学中の学びの状況を中学校等の校長先生により「状況報告書」に記載してもらい、出願書類の一つとして提出する必要があります。

Q 1 年間の欠席日数が 30 日未満の場合は、出願することができないのですか

A 上記のとおり、年間 30 日未満の欠席日数であっても、その出席日数の相当数が保健室等の校内の別室や教育支援センター等での学びであり、教室での学びが十分ではなかったと感じられる生徒も対象となります。

Q 出願の際に必要な書類はありますか

A 志願者本人及び保護者の記載による、中学校等に在学中の学びの状況と高校での新たな学びに向けた抱負や将来の希望等を記した「自己申告書」の提出が必要です。また、中学校等の校長先生の記載による「状況報告書」の提出が必要です。

Q どのような基準で選抜されるのですか

A 個人調査報告書（調査書）を選抜の資料とせず、学力検査、面接及び実技検査（実技検査は一部の学科のみ）の総合点により選抜します。選抜に当たっては、この選抜方式での出願者を除いた一般入学者選抜又は第 2 次募集の学力検査の合格ラインを参考資料とします。

Q この選抜方式で合格した場合、高校入学後も教室以外の場所で学習が可能ですか

A この選抜方式は、高校入学後に気持ちを新たに学校での学びに精一杯取り組みたいと思っている生徒が、ためらうことなく自ら志願する高校に出願できることを促すために導入した制度です。したがって、高校入学後に教室以外の場所で学習することを前提としたものではありません。

令和6年度2月補正予算案(3月5日上程分)の概要について (教育委員会)

令和6年度島根県一般会計補正予算(第10号)

1. 補正予算の概要

(単位: 千円)

課名	補正前の額		補正額		補正後の額	
	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源
総務課	70,553,044	57,266,742	1,019,692	△ 966,793	71,572,736	56,299,949
給与費	70,373,410	57,087,108	1,004,282	△ 982,203	71,377,692	56,104,905
給与費以外	179,634	179,634	15,410	15,410	195,044	195,044
教育施設課	1,182,022	948,294	△ 48,859	△ 47,370	1,133,163	900,924
学校企画課	6,987,726	4,691,387	△ 182,461	△ 319,513	6,805,265	4,371,874
教育指導課	2,157,036	1,288,006	626,074	△ 21,533	2,783,110	1,266,473
特別支援教育課	1,489,471	1,239,428	△ 102,822	△ 84,909	1,386,649	1,154,519
保健体育課	254,442	230,107	15,662	12,277	270,104	242,384
社会教育課	693,321	467,058	△ 45,700	△ 29,713	647,621	437,345
人権同和教育課	44,167	40,777	△ 2,364	△ 783	41,803	39,994
文化財課	1,643,456	837,096	△ 307,122	△ 27,139	1,336,334	809,957
福利課	248,864	199,144	△ 9,466	△ 9,358	239,398	189,786
合計	85,253,549	67,208,039	962,634	△ 1,494,834	86,216,183	65,713,205

※給与費は全額総務課で計上

2. 債務負担行為 〔変更分〕

(単位：千円)

No.	事項	期間	限度額			説明	課名
			変更前	変更後	増減		
1	青少年の家管理運営事業費	令和7年度～令和11年度	434,700	442,115	7,415	公募後の人件費や物価の上昇を踏まえ、教育委員会所管の2施設の指定管理料を増額	社会教育課
2	古墳の丘古曽志公園管理運営事業費	令和7年度～令和11年度	41,325	42,155	830		文化財課

3. 繰越明許費 〔追加分〕

(単位：千円)

No.	事業名	金額	課名
1	歴史遺産保存整備事業費	6,581	文化財課

4. 主な補正内容

課名	補正額（千円）	主な内容
総務課	1,019,692	<ul style="list-style-type: none"> 退職手当の退職者数見込みによる増（+1,251百万円） （島根県退職手当基金繰入れによる財源更正を含む（基金繰入金+1,909百万円、一般財源△658百万円）） 職員給与費の現員現給による減（△246百万円）
教育施設課	△ 48,859	<ul style="list-style-type: none"> 浜田養護学校防火設備設置工事箇所の変更による減（△32百万円） 浜田養護学校新校舎建築工事設計費の実績見込みによる減（△14百万円）
学校企画課	△ 182,461	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師の配置実績見込みによる増（+103百万円） エネルギー価格・物価高騰による光熱費等の増（+35百万円） 奨学のための給付金及び就学支援金実績見込みによる減（△132百万円） スクールサポートスタッフ、寄宿舎外部舎監等の配置実績見込みによる減（△131百万円）
教育指導課	626,074	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等の一人一台端末更新に係る基金積立金の増（+701百万円） 一人一台端末購入に係る端末購入補助金等の実績見込みによる減（△23百万円） 教育魅力化人づくり推進事業交付金等の実績見込みによる減（△17百万円）
特別支援教育課	△ 102,822	<ul style="list-style-type: none"> 人件費（非常勤看護師、非常勤講師等）の実績見込みによる減（△62百万円） 特別支援教育就学奨励費の実績見込みによる減（△35百万円）
保健体育課	15,662	<ul style="list-style-type: none"> 部活動改革支援事業の部活動指導員等の運動部への配置実績見込みによる増（+20百万円）
社会教育課	△ 45,700	<ul style="list-style-type: none"> 部活動改革支援事業の部活動指導員等の文化部への配置実績見込みによる減（△20百万円） 結集！しまねの子育て協働プロジェクト補助金事業の実績見込みによる減（△11百万円） ふるさと人づくり推進事業の実績見込みによる減（△6百万円）
人権同和教育課	△ 2,364	<ul style="list-style-type: none"> 国費事業未実施（応募なし）による減（△2百万円）
文化財課	△ 307,122	<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財発掘調査受託業務の実績見込みによる減（△268百万円） 石見銀山遺跡整備事業等の実績見込みによる減（△12百万円）
福利課	△ 9,466	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断委託費の実績見込みによる減（△8百万円）

5. 課別事業別一覧

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
総務課		70,553,044	1,019,692	71,572,736	108,256	△ 19,316			1,897,545	△ 966,793
	1 一般職給与費 [給与費]	64,808,815	△ 246,394	64,562,421	給料、期末勤勉手当等の実績見込みによる減					
	2 職員退職手当 [給与費]	5,532,406	1,250,658	6,783,064	退職手当の退職者数見込みによる増					
	3 特別職給与・委員報酬 [給与費]	32,189	18	32,207	給料、職員手当等実績見込みによる増					
	4 教育委員会開催事務費	2,181	△ 3	2,178	費用弁償の実績見込みによる減					
	5 島根県総合教育審議会開催事務費	1,703	△ 56	1,647	総合教育審議会開催の実績による減					
	6 しまね教育の日推進事務費	1,580	△ 278	1,302	各種イベント・表彰の実績見込みによる減					
	7 教職員総務費	21,178	0	21,178						
	8 教育事務所管理運営費	34,233	△ 2,615	31,618	会計年度任用職員経費の実績見込みによる減					
	9 教育庁管理運営費	85,555	△ 303	85,252	会計年度任用職員経費の実績見込みによる減					
	10 教育委員会人事管理費	15,690	18,588	34,278	会計年度任用職員経費の実績見込みによる増					
	11 国庫支出金返還金	0	77	77	義務教育費国庫負担金返還金					
	12 教育総務諸費	17,514	0	17,514						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
教育施設課		1,182,022	△ 48,859	1,133,163	△ 1,175	686			△ 1,000	△ 47,370
	1 高等学校校舎等整備事業費	32,773	0	32,773						
	2 特別支援学校校舎等整備事業費	167,826	△ 46,425	121,401	浜田養護学校防火設備設置工事箇所の変更による減、浜田養護学校新校舎建築工事設計費の実績見込みによる減					
	3 教育財産維持管理費	729,294	10	729,304						
	4 産業教育設備整備事業費	153,142	△ 1	153,141						
	5 学校施設バリアフリー化事業費	59,469	△ 1,016	58,453	邇摩高校体育館改修設計費の実績見込みによる減					
	6 普通高校等情報教育機器整備事業費	19,169	△ 51	19,118						
	7 理科教育設備整備事業費	12,006	0	12,006						
	8 学校施設等整備事業費	5,027	△ 1,376	3,651	市町村指導事務費の実績見込みによる減					
	9 高等学校諸費	2,683	0	2,683						
	10 特別支援学校諸費	633	0	633						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
学校企画課		6,987,726	△ 182,461	6,805,265	118,536	△ 5,436	710		23,242	△ 319,513
	1 学びの場を支える非常勤講師配置事業費	656,219	△ 51,454	604,765	非常勤講師の配置実績見込みによる減					
	2 地域人材を活用した指導力等向上事業費	1,004,213	△ 131,132	873,081	サポート人材、寄宿舍外部舎監の配置実績見込みによる減					
	3 県立学校再編成事業費	5,083	△ 427	4,656						
	4 高等学校等就学支援事業費	1,530,565	△ 132,134	1,398,431	奨学のための給付金及び就学支援金実績見込みによる減					
	5 島根県高等学校等奨学事業費	40,547	0	40,547						
	6 高等学校修学奨励費	7,438	△ 667	6,771						
	7 教職員総務費	1,497,408	103,191	1,600,599	非常勤講師の配置実績見込みによる増					
	8 教職員人事管理事務費	4,183	0	4,183						
	9 教職員の資質確保事務事業費	5,246	0	5,246						
	10 専門的知識習得事業費	4,922	△ 400	4,522						
	11 教職員採用試験事務事業費	63,952	△ 3,187	60,765	採用試験実施経費の実績見込みによる減					
	12 実習船管理運営費	341,681	△ 2	341,679						
	13 学校管理運営費	1,613,779	35,428	1,649,207	エネルギー価格・物価高騰による光熱費等の増					
	14 学校管理総務費	183,530	△ 2,170	181,360	県立学校教員用パソコン等経費の実績見込みによる減					
	15 教育総務諸費	7,540	0	7,540						
	16 教育環境整備検討事業費	500	0	500						
	17 普通科改革支援事業費	11,200	0	11,200						
	18 被災児童生徒就学支援事業費	9,720	0	9,720						
	19 国庫支出金返還金	0	493	493						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
教育指導課		2,157,036	626,074	2,783,110	652,393	70	300		△ 5,156	△ 21,533
	1 学力育成推進事業費	141,376	△ 6,131	135,245	高校生留学促進事業の国庫補助事業不採択による減					
	2 未来の創り手育成事業費	994,727	△ 22,981	971,746	一人一台端末購入にかかる端末購入費補助金の実績減					
	3 一人一台端末更新事業費	60,342	698,534	758,876	市町村等の一人一台端末更新に係る基金積立金の増					
	4 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業費	58,941	△ 3,619	55,322	帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業補助金（市町村）の実績見込みによる減					
	5 教育魅力化人づくり推進事業費	333,461	△ 16,931	316,530	教育魅力化人づくり推進事業交付金の実績見込みによる減					
	6 幼児教育総合推進事業費	13,947	△ 3,547	10,400						
	7 悩みの相談事業費	245,210	△ 8,664	236,546	子どもと親の相談員配置事業の国交付決定による配置時間の減					
	8 生徒指導体制充実強化事業費	18,261	△ 2,989	15,272	調査研究事業費の実績見込みによる減					
	9 「こころ・発達」教育相談事業費	9,275	△ 100	9,175						
	10 不登校対策推進事業費	27,253	△ 1,776	25,477						
	11 教育センター管理運営費	55,561	4,939	60,500	空調設備の増設に伴う増					
	12 教育センター調査研究事業費	1,868	△ 847	1,021						
	13 教職員研修事業費	15,349	△ 24	15,325						
	14 新規採用教員資質向上事業費	2,862	△ 1,323	1,539	研修対象施設が想定を下回ったことによる実績の減					
	15 学校安全確保推進事業費	124,481	△ 2,123	122,358	災害共済給付金の実績見込みによる減					
	16 学校管理総務費	33,424	△ 6,344	27,080	入試採点支援システム導入の実績による減					
	17 教育総務諸費	20,698	0	20,698						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
特別支援教育課		1,489,471	△ 102,822	1,386,649	△ 21,305				3,392	△ 84,909
1 インクルーシブ教育システム構築事業費		42,422	△ 4,199	38,223	人件費（非常勤看護師）の実績見込みによる減					
2 特別支援教育就学奨励事業費		377,653	△ 34,609	343,044	特別支援教育就学奨励費の実績見込みによる減					
3 特別支援学校職業教育・就業支援事業費		14,233	△ 426	13,807						
4 特別支援学校普通教室ICT環境整備事業費		91,571	△ 5,932	85,639	教員用端末等整備費用の実績による減					
5 学校管理運営費		825,782	△ 47,626	778,156	人件費（ワークセンター職員等）の実績見込みによる減					
6 教職員総務費		109,527	△ 8,948	100,579	人件費（非常勤講師）及び赴任旅費の実績見込みによる減					
7 特別支援学校図書館教育推進事業費		16,633	△ 1,082	15,551	人件費（学校司書）の実績見込みによる減					
8 学校給食等緊急対策事業費		10,328	0	10,328						
9 教育総務諸費		1,322	0	1,322						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
保健体育課		254, 442	15, 662	270, 104	3, 385					12, 277
	1 学校体育指導力向上事業費	5, 266	△ 1, 503	3, 763	令和の日本型学校体育構築支援事業の実績見込みによる減					
	2 子どもの体力向上支援事業費	1, 049	△ 411	638						
	3 体育・競技スポーツ大会支援事業費	1, 803	0	1, 803						
	4 食育推進事業費	3, 139	△ 92	3, 047						
	5 健康教育推進事業費	3, 486	△ 699	2, 787						
	6 児童・生徒の健康管理実施事業費	77, 792	△ 2, 472	75, 320	各種健康診断の実績見込みによる減					
	7 子どもの健康づくり事業費	2, 045	△ 343	1, 702						
	8 インターハイ実施競技支援事業費	79, 326	2, 137	81, 463	環境整備費の実績見込みによる増					
	9 部活動改革支援事業費	75, 492	19, 046	94, 538	部活動指導員等の実績見込みによる増					
	10 保健体育諸費	5, 044	△ 1	5, 043						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
社会教育課		693,321	△ 45,700	647,621	△ 12,097	△ 3,420			△ 470	△ 29,713
	1 結集!しまねの子育て協働プロジェクト事業費	66,778	△ 10,670	56,108	市町村補助金の実績見込みによる減					
	2 ふるさと人づくり推進事業費	8,537	△ 6,239	2,298	市町村補助金の実績見込みによる減					
	3 ふるさと教育推進事業費	25,782	△ 1,356	24,426						
	4 社会教育士確保・養成事業費	8,969	△ 2,973	5,996	社会教育主事講習派遣の実績見込みによる減					
	5 社会教育総合推進事業費	1,007	△ 370	637						
	6 家庭教育の支援体制整備事業費	400	△ 58	342						
	7 青少年文化活動推進事業費	9,797	△ 63	9,734						
	8 部活動改革支援事業費	42,303	△ 20,167	22,136	部活動指導員等の実績見込みによる減					
	9 子ども読書活動推進事業費	9,541	△ 1,286	8,255	会計年度任用職員経費等の実績見込みによる減					
	10 社会教育研修センター事業費	15,742	373	16,115						
	11 図書館事業費	139,007	△ 1,083	137,924						
	12 青少年の家事業費	274,855	△ 1,491	273,364	会計年度任用職員経費等の実績見込みによる減					
	13 少年自然の家事業費	79,851	△ 317	79,534						
	14 社会教育諸費	10,752	0	10,752						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
人権同和教育課		44,167	△ 2,364	41,803	△ 1,550				△ 31	△ 783
	1 人権教育行政推進事業費	3,745	0	3,745						
	2 人権教育推進事業費	2,644	0	2,644						
	3 人権教育研究事業費	2,467	△ 1,550	917	国費事業未実施（応募なし）による減					
	4 進路保障推進事業費	25,532	△ 814	24,718	市町村補助金の実績見込による減					
	5 高等学校奨学事業費	2,909	0	2,909						
	6 社会教育諸費	3,421	0	3,421						
	7 教育総務諸費	3,449	0	3,449						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
文化財課		1,643,456	△ 307,122	1,336,334	△ 264,917	△ 5,778		△ 9,500	212	△ 27,139
	1 島根の歴史文化活用推進事業費	37,152	△ 2,693	34,459	「島根の歴史文化」県外PR事業等の実績見込みによる減					
	2 未来へ引き継ぐ石見銀山保全事業費	90,491	△ 11,542	78,949	石見銀山遺跡整備事業等の実績見込みによる減					
	3 古代文化の郷“出雲”整備事業費	3,867	△ 687	3,180						
	4 古代文化の郷“出雲”調査事業費	20,474	△ 8,708	11,766	風土記の丘地内発掘調査事業の実績見込みによる減					
	5 歴史遺産保存整備事業費	165,500	△ 6,330	159,170	国指定文化財修理費等助成の実績見込みによる減					
	6 指定文化財等保護事務費	5,215	△ 189	5,026						
	7 いにしえのしまね学習事業費	4,093	△ 391	3,702						
	8 埋蔵文化財調査センター事業費	608,388	△ 267,741	340,647	埋蔵文化財発掘調査受託事業の実績見込みによる減					
	9 風土記の丘事業費	72,504	1,246	73,750	指定管理料の実績見込増等による増額					
	10 古墳の丘古曾志公園管理運営事業費	8,721	466	9,187	維持修繕費の執行見込み増					
	11 法令等に基づく開発事業との調整経費	3,478	△ 137	3,341						
	12 古代出雲歴史博物館管理運営事業費	551,341	△ 6,823	544,518	指定管理料の精算等による減					
	13 古代文化基礎研究事業費	23,070	△ 2,949	20,121	考古基礎資料調査事業等の実績見込みによる減					
	14 古代文化研究事業費	27,283	△ 643	26,640						
	15 調査研究成果の情報発信事業費	3,651	0	3,651						
	16 社会教育諸費	18,228	△ 1	18,227						

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
福利課		248,864	△ 9,466	239,398					△ 108	△ 9,358
1 教職員の労働安全・衛生推進事業費		3,066	△ 282	2,784						
2 教職員の健康診断事業費		60,934	△ 7,572	53,362	健康診断委託費の実績見込みによる減					
3 教職員の健康調査・分析事業費		203	△ 87	116						
4 教職員のメンタルヘルス対策事業費		13,418	△ 3,568	9,850	臨床心理士による相談の実績見込みによる減					
5 教職員福利厚生事業費		1,553	0	1,553						
6 公立学校共済組合への支援事業費		101,943	2,152	104,095	国による負担金単価の見直し等による増					
7 教職員住宅維持管理事業費		64,573	△ 108	64,465						
8 教育総務諸費		3,174	△ 1	3,173						

令和 6 年度島根県学力調査結果概要について

1 調査

(1) 目的

令和 6 年度全国学力・学習状況調査（令和 6 年 4 月 18 日実施）以後の学習の状況や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

(2) 実施日

令和 6 年 12 月 3 日（火）、4 日（水）

(3) 対象の学校・学年・教科

- ・ 対象の学校
公立小学校、中学校、義務教育学校（特別支援学校小学部、中学部を含む）
- ・ 対象の学年・教科
小学校：第 5 学年、第 6 学年の国語・算数
中学校：第 1 学年、第 2 学年の国語・数学・英語

(4) 特徴

- ① 県内児童生徒の経年比較や全国の状況との比較が容易になるよう、標準学力調査を採用（令和 2 年度より）
- ② 学力調査とともに児童生徒に対する「生活・学習に関する意識調査」を実施

2 学力調査の結果概要

(1) 国語

- ① 日常的に使用頻度の高い既習漢字の読み書きや話の内容を聞き取ることは概ねできている
- ② 「書くこと」について、中学校で記述式の問題の正答率が改善し、第 1 学年では作文問題の無解答率も減少した
- ③ 文章全体の構成や論理の展開、描写をもとにした心情の把握や、資料をもとにして自分の考えを形成し表現することに課題がみられる（小学校・中学校）

(2) 算数・数学

- ① 分数、文字式などの基本的な計算や、平面図形の基礎的な内容は概ねできている
- ② 数量の関係を読み解くこと、立体図形の概念の理解や構成要素の関係の把握に課題がみられる（小学校）
- ③ 数や式の意味の理解や、「関数」領域について式・表・グラフを関連付けて考えることに課題がみられる（中学校）

(3) 英語

- ① 適切な語、語順を答える問題や、短い対話の概要を捉えることは概ねできている

- ② 日常的な話題について書かれたものや図表を参考にして必要なことを読み取る力に課題がみられる
- ③ 知識を活用して伝えたいことについての情報を正確に書く力、テーマについて具体的な理由や説明を付け加えて書く力に課題がみられる

3 生活・学習に関する意識調査の結果概要

- (1) 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると答えた児童生徒は、学年が上がるにつれて増えている
- (2) 今年度の授業で、PC・タブレット等の ICT 機器を使用した割合が増加している
- (3) 平日に 1 時間以上家庭学習を行っている児童生徒の割合が昨年度より減少し、学年が上がるにつれて「ほとんど学習しない」割合が高まっている
- (4) 平日における SNS や動画視聴等の使用時間は学年が進むにつれて増加し、特に 2 時間以上の割合の増加が顕著である（中学 2 年生で 2 時間以上の割合は 51.7%）

4 今後の対応

〈各学校における取組の重点〉

- (1) 全国学力・学習状況調査において課題のあった問題を全教員が解き、ポイントや求められる力、児童生徒のつまずきの要因を共有したことを踏まえて、授業改善を実施・検証する
- (2) 各教科において、自分の考えを自分の言葉で説明・表現することができるよう、繰り返し丁寧に指導する
- (3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、一人一台端末の日常かつ効果的な活用を一層推進する
- (4) 家庭学習の在り方を見直し、家庭学習と授業の学びをつなぐ工夫を推進するとともに、家庭での一人一台端末の使い方や SNS・インターネット等の利用の仕方について家庭と連携し、共通理解を図る

〈県教育委員会の取組〉

- (1) 学力育成会議等で市町村と学力育成の取組について協議するとともに、各市町村の取組や成果を共有
- (2) 「全国学力・学習状況調査」「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」「英語教育実施状況調査」等で学力育成に係る市町村の状況を把握し、支援
- (3) 学校全体での組織的な授業改善を学校訪問により支援するとともに、令和 7 年度から全国学力・学習状況調査の課題を分析し、授業や家庭学習で活用できる評価問題や評価問題を取り入れた授業プランを提供
- (4) 小学校低学年段階からの学習のつまずきを把握し、授業改善や学習支援に生かすための調査を令和 7 年度から実施
- (5) 課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成、配信

令和 6 年度 島根県学力調査 結果概要

令和 7 年 2 月 17 日（月）
島根県教育委員会

I 実施概要

1 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

2 実施日

令和6年12月3日（火）・4日（水）

3 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 193校
 公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 94校
 義務教育学校 2校
 （国立義務教育学校及び私立中学校は不参加）

4 実施学年・教科・人数

			教科に関する調査			意識調査	県全体の 在籍者数 (R6.9.1時点)
			国語	算数 数学	英語		
小学校	第5学年	実施人数	5,254	5,256		5,253	5,543
		割合(%)	94.8	94.8		94.8	
	第6学年	実施人数	5,300	5,299		5,302	5,612
		割合(%)	94.4	94.4		94.5	
中学校	第1学年	実施人数	4,987	4,998	4,998	4,996	5,508
		割合(%)	90.5	90.7	90.7	90.7	
	第2学年	実施人数	4,859	4,868	4,867	4,873	5,499
		割合(%)	88.4	88.5	88.5	88.6	

5 県調査の考え方・特徴

（1）全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）と島根県学力調査（以下「県調査」という）をつなげたPDCAサイクルの構築を推奨している。

- ①全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、県調査で検証するPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。
- ②当年度の指導の状況について客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるようにする。

（2）教科に関する調査

フォローアップ機能の充実を図るため標準学力調査を活用する。

(3) 生活・学習に関する意識調査

標準学力調査の質問項目及び県独自に設定した質問項目について調査する。

(4) 課題をとらえやすい帳票と Web 評価支援システムの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいよう帳票の各種データ表示を工夫するとともに、Web 上で結果データを分析することができる Web 評価支援システムを提供する。

(5) 子どもたちの事後学習を促すための個人帳票とフォローアップ教材の提供

結果を記載した個人帳票に加え、事後学習に活用できるフォローアップ教材を提供する。

6 用 語

○平均正答率：設問の正答率の平均値

- ・島根県値：県内の受検者の正答率の平均値
- ・全国値：委託業者による標準学力調査の実施期間における、全国の受検者の正答率の暫定的な平均値

7 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

令和6年度島根県学力調査 結果概要 ＊本資料

- I 実施概要
- II 教科に関する調査の結果
- III 意識調査の結果概要
- IV 今後の対応

Ⅱ 教科に関する調査の結果

○教科平均正答率とは、教科における全設問の正答率の平均値を表している。
島根県値：県内の受検者の正答率の平均値
全国値：委託業者による標準学力調査の実施期間における、全国の受検者の正答率の暫定的な平均値

【小学校国語】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (％)

学 年		第 5 学年		第 6 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		65.0	71.9	62.9	69.9
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	73.3	78.9	86.4	88.0
	書くこと	53.4	69.7	56.3	68.7
	読むこと	62.9	66.5	66.6	73.8
	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.2	74.2	59.4	65.4
	情報の扱い方に関する事項	56.1	62.6	57.5	62.5
	我が国の言語文化に関する事項	57.5	64.5	35.1	46.9

【令和 6 年度全国調査（4 月実施）の課題】

- A 目的や意図に応じて、集めた情報を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がみられる。
B 登場人物の相互関係や心情などについて、暗示的な描写を基に捉えることに課題がみられる。

【本調査の状況】

- 教科平均正答率の島根県値は、第 5 学年、第 6 学年ともに全国値を下回った。
- 領域別にみると、第 5 学年は全ての領域で全国値を下回った。第 6 学年は「話すこと・聞くこと」は全国値並みで、他の領域は全国値を下回った。第 5 学年、第 6 学年とも「書くこと」が全国値を大きく下回った。
- ① 第 6 学年では、「話すこと・聞くこと」において、話の内容を聞き取ることは概ねできている。
- ② 第 5 学年では、「読むこと」において、文章の内容を捉えることは概ねできている。
- ③ 既習漢字の読み書きは第 5 学年、第 6 学年ともに全国値との差が比較的小さい。
- ❶ 「書くこと」において、複数の情報から読み取った内容をもとに、指定された条件にしたがって自分の考えを書くことに課題があり、第 5 学年では作文問題の無解答率も高い。
- ❷ 第 6 学年では、「読むこと」において、描写をもとに登場人物の心情を捉えることに引き続き課題がみられる。…B
- ❸ 第 5 学年では、「読むこと」において、共有された意見や感想がどの表現に注目したものかを捉えることに課題がある。

2 比較的できている問題

第 5 学年（1）

〔問題番号〕 2（1）①「言葉の特徴や使い方に関する事項」㊦③
[島根県値 97.8%]
[全国値 96.7%]
〔問題内容〕
漢字を読む。
〔出題のねらい〕
第 5 学年に配当されている漢字を正しく読むことができるかをみる。

第 6 学年（1）

〔問題番号〕 1（1）「話すこと・聞くこと」㊦①
[島根県値 97.7%]
[全国値 97.6%]
〔問題内容〕
話し手が述べた理由の説明として最も適切なものを選ぶ。
〔出題のねらい〕
インタビューを聞き取り、話の内容を捉えているかをみる。

第5学年（2）

〔問題番号〕 5（1）「読むこと」㊦②
〔島根県値〕 69.8%
〔全国値〕 72.1%
〔問題内容〕
叙述から読み取れる内容として最も適切なものを選ぶ。
〔出題のねらい〕
叙述をもとに文章の内容を捉えているかをみる。

第6学年（2）

〔問題番号〕 2（1）③「言葉の特徴や使い方に関する事項」㊦③
〔島根県値〕 98.3%
〔全国値〕 96.0%
〔問題内容〕
漢字を読む。
〔出題のねらい〕
第6学年に配当されている漢字を正しく読むことができるかをみる。

3 課題のある問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 4（3）「読むこと」㊦③
〔島根県値〕 35.1%
〔全国値〕 42.5%
〔問題内容〕
物語の内容に関する話し合いにおいて注目している表現を選ぶ。
〔出題のねらい〕
共有された意見や感想がどの表現に注目したものかを捉えているかをみる。

第6学年（1）

〔問題番号〕 4（1）「読むこと」㊦②
〔島根県値〕 65.4%
〔全国値〕 75.5%
〔問題内容〕
登場人物の心情として最も適切なものを選ぶ。
〔出題のねらい〕
登場人物の心情について、描写を基に捉えることができるかをみる。

第5学年（2）

〔問題番号〕 7「書くこと」㊦①
〔島根県値〕 46.3%
〔全国値〕 68.4%
〔問題内容〕
字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。
〔出題のねらい〕
条件を踏まえながら、読み取った内容や自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

第6学年（2）

〔問題番号〕 6（2）「情報の扱いに関する事項」・「書くこと」㊦①
〔島根県値〕 47.5%
〔全国値〕 52.8%
〔問題内容〕
複数の資料をもとに、図書だよりの下書きの空欄に当てはまる文章を書く。
〔出題のねらい〕
情報と情報との関係について理解し、条件を踏まえながら、目的に応じた文章を書くことができるかをみる。

4 今後の指導のポイント

- （1）複数の情報から読み取った内容をもとに、指定された条件にしたがって自分の考えを書く学習を工夫・充実する。
- ・「情報の収集→整理・分析・考えの形成→文章を書いて表現」という一連の情報活用過程を含んだ言語活動を設定する。
 - ・文字数・段落構成・時間などを指定したり、資料を根拠に用いたり、考えの理由を述べたりなど様々な条件に応じて文章を書く場面、書いた文章が条件に即して分かりやすく伝わりやすいものになっているか互いの文章を読み合う場面を、繰り返し設定する。
 - ・言語活動を実践する際には、学校図書館やICT機器を有効に活用し、活動の充実を図る。
- （2）文章の内容をよりの確に捉え、考えの広がりや深まりにつながるように、登場人物の心情や表現に注目する学習過程を工夫する。
- ・登場人物相互の関係にもとづいた行動や会話、情景などに注目することで、登場人物の心情を把握する場面を設定する。
 - ・心情や表現についての意見や感想を共有して共通点や相違点を明らかにしたり、互いの気づきを認め合ったりする中で、自分の考えを広げたり深めたりする場面を設定する。

【小学校算数】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (％)

学 年		第 5 学年		第 6 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		55.9	62.2	63.7	67.3
領域別 平均正答率	数と計算	56.5	61.7	66.9	72.2
	図形	65.2	74.2	63.9	67.0
	変化と関係	38.1	44.0	46.9	47.7
	データの活用	44.3	52.9	66.8	66.9

【令和 6 年度全国調査（4 月実施）の課題】

- A 図形の特徴や構成要素を他の図形の計量に生かすことに課題がある。
B 道のりと時間の 2 つの量の関係で表される速さなど、2 つの量の割合として捉えられる数量について理解し、説明することに課題がある。

【本調査の状況】

- 教科平均正答率の島根県値は、第 5 学年、第 6 学年ともに全国値を下回った。
 - 領域別にみると、第 6 学年の「変化と関係」「データの活用」は全国値並みで、その他の領域はいずれも全国値を下回った。
- ① 基礎的な分数の計算については概ねできている。
② 「図形」の領域において、平面図形の基礎的な内容については概ね理解できている。
❶ 「数と計算」「変化と関係」の領域において、正答率が全国値並みのものもあるが、数量の関係を読み解くことに課題がある。…B
❷ 「図形」の領域において、立体図形の概念の理解、構成要素の関係を捉えることに課題がある。…A

2 比較的できている問題

第 5 学年（1）

〔問題番号〕 3（4）「数と計算」㊦①
〔島根県値 81.8％〕
〔全国値 89.6％〕
〔問題内容〕
分母の異なる分数の足し算の計算をする。
〔出題のねらい〕
真分数＋真分数＝真分数で、片方の分母にそろえる通分をする計算ができるかをみる。

第 6 学年（1）

〔問題番号〕 3（1）「数と計算」㊦①
〔島根県値 88.7％〕
〔全国値 92.7％〕
〔問題内容〕
真分数×真分数の計算をする。
〔出題のねらい〕
約分のない真分数×真分数＝真分数となる計算ができるかをみる。

第 5 学年（2）

〔問題番号〕 12「図形」㊦②
〔島根県値 85.6％〕
〔全国値 85.6％〕
〔問題内容〕
合同な図形を作図する。
〔出題のねらい〕
3 辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができるかをみる。

第 6 学年（2）

〔問題番号〕 13（2）「データの活用」
〔島根県値 88.2％〕
〔全国値 88.2％〕
〔問題内容〕
目的に応じて、データを整理する。
〔出題のねらい〕
度数分布表を完成させることができるかをみる。

3 課題のある問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 8（1）「図形」👉②	
〔島根県値〕 52.9%	
〔全国値〕 77.2%	
〔問題内容〕	
立方体の体積を求める。	
〔出題のねらい〕	
立方体の体積を求める式を理解できているかをみる。	

第6学年（1）

〔問題番号〕 2「数と計算」👉①	
〔島根県値〕 55.3%	
〔全国値〕 69.0%	
〔問題内容〕	
分数のかけ算の積の大きさを見積もる。	
〔出題のねらい〕	
分数の乗数の大きさから、積と被乗数の大小を判断することができるかをみる。	

第5学年（2）

〔問題番号〕 15（3）「数と計算」👉①	
〔島根県値〕 8.1%	
〔全国値〕 12.0%	
〔問題内容〕	
わり算を用いる場面で、あまりの処理の仕方を考える。	
〔出題のねらい〕	
厚さ 5.4 cmの辞書を、幅 90 cmの本棚に何冊ならべることができるかの説明ができるかをみる。	

第6学年（2）

〔問題番号〕 14（1）「変化と関係」👉①	
〔島根県値〕 28.2%	
〔全国値〕 27.5%	
〔問題内容〕	
比を用いた知りたい量の求め方を説明する。	
〔出題のねらい〕	
比を使って、一方の量から他方の量を求めることができるかをみる。	

4 今後の指導のポイント

（1）問題場面を図や数直線に表し、式と関連づけて考える経験を大切にする。

- 問題の文脈に沿って図をかく。問題文全体から数量の関係を表す言葉を見つけて図をかく。問題場面を数直線に表し、位置関係から数量の関係を読み取る。表した図や数直線から解の大きさの見当をつけたり、数量の関係を読み取って立式に生かしたりする。このような図や数直線と式を関連付けて考える経験を低学年の段階から積み重ねる。

（2）立体図形の概念や用語について実感を伴った理解となるよう、具体物を操作する活動を取り入れる。

- 箱やボールなど身の回りにある立体物を「持つ」「積む」「並べる」「転がす」など、実際に操作する活動を授業に取り入れる。具体物を操作する活動を通して、感じたこと、気付いたことなどを言語化し、図形の構成要素の特徴と関連付けながら算数の用語を理解する過程を大切にする。授業で学習した算数の用語等を学習や学校生活の中で意識的に用いる。

【中学校国語】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (%)

学 年		第 1 学年		第 2 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		58.8	59.9	56.6	58.0
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	57.4	59.4	63.8	64.8
	書くこと	50.2	49.1	47.5	48.3
	読むこと	52.8	55.5	49.0	50.7
	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.0	69.4	71.5	73.9
	情報の扱い方に関する事項	32.8	35.2	20.8	20.7
	我が国の言語文化に関する事項	76.0	78.1	39.7	39.9

【令和6年度全国調査（4月実施）の課題】
A 資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えることに課題がある。
B 表現の効果を踏まえた描写により自分の考えが効果的に伝わる文章になるよう工夫することに課題がある。

【本調査の状況】
・教科平均正答率の島根県値は、第1学年・第2学年とも全国値並みであった。
・領域別にみると、第1学年は「話すこと・聞くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国値を下回り、他の領域は全国値並み、第2学年は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国値を下回り、他の領域は全国値並みであった。
① 「書くこと」については、記述式の問題の正答率が改善し、第1学年では条件作文の無解答率が減少した。
② 日常的に使用頻度の高い漢字の読み書きについては、概ねできている。
❶ 文章全体の構成や段落相互の役割、論理の展開の把握に課題がある。
❷ 第1学年では複数の資料の比較をもとに自分の考えを形成して文章を書くこと、第2学年では資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えることに課題がある。…A
❸ 日常的に使用頻度の低い熟語の読み書きや同訓異字の使い分け、ことわざの理解に課題がある。

2 比較的できている問題

第 1 学年（1）	第 2 学年（1）
<div>〔問題番号〕 2（2）①「言葉の特徴や使い方に関する事項」㊦② 〔島根県値 81.9%〕 〔全国値 80.0%〕 〔問題内容〕 かなを漢字に直して書く。 〔出題のねらい〕 小学校で学習した漢字を正しく書くことができるかをみる。</div>	<div>〔問題番号〕 1（3）「話すこと・聞くこと」 〔島根県値 44.0%〕 〔全国値 38.8%〕 〔問題内容〕 話の内容を聞き取り、当てはまる言葉を条件にしたがって書く。 〔出題のねらい〕 論理の展開に注意して、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめられるかをみる。</div>

第1学年(2)

〔問題番号〕 7 「書くこと」 ㊦①

〔島根県値〕 59.8%

〔全国値〕 57.4%

〔問題内容〕

字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

〔出題のねらい〕

条件を踏まえながら、読み取った内容や自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

第2学年(2)

〔問題番号〕 7 「書くこと」 ㊦①

〔島根県値〕 48.5%

〔全国値〕 48.5%

〔問題内容〕

字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

〔出題のねらい〕

条件を踏まえながら、読み取った内容や自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

3 課題のある問題

第1学年(1)

〔問題番号〕 4 (3) 「読むこと」 ㊦①

〔島根県値〕 63.0%

〔全国値〕 66.7%

〔問題内容〕

文章の構成についての説明として正しいものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかをみる。

第2学年(1)

〔問題番号〕 1 (2) 「話すこと・聞くこと」

㊦②

〔島根県値〕 71.5%

〔全国値〕 77.7%

〔問題内容〕

話し方の共通点の説明として正しいものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫できるかをみる。

第1学年(2)

〔問題番号〕 6 (3) 「情報の扱い方に関する事項」・「書くこと」 ㊦②

〔島根県値〕 30.2%

〔全国値〕 32.4%

〔問題内容〕

資料をもとに、レポートの空欄に当てはまる文章を書く。

〔出題のねらい〕

情報と情報との関係について理解し、考えが伝わる文章になるように工夫できるかをみる。

第2学年(2)

〔問題番号〕 4 (2) 「読むこと」 ㊦①

〔島根県値〕 67.6%

〔全国値〕 71.6%

〔問題内容〕

段落の役割についての説明として正しいものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

文章の構成や論理の展開について考えることができるかをみる。

4 今後の指導のポイント

- (1) 文章全体の構成や段落相互の役割、論理の展開の把握につながる学習過程を工夫する。
 - ・文章の内容理解にとどまらず、文章全体の構成や段落相互の役割について考える学習活動や、学んだことを活用して自分の考えを筋道立てて表現する言語活動を設定する。
- (2) 資料の比較をもとに自分の考えを工夫して伝える学習過程を工夫する。
 - ・資料の内容や数値を読み取るだけでなく、資料の役割や効果について考える学習活動を設定する。
 - ・「資料の収集→整理・分析・(資料を根拠にした) 考えの形成→効果的に相手に伝える」という一連の情報活用過程を含んだ言語活動を設定し、学校図書館や ICT 機器を活用しながら学習を進める。
- (3) 日常的に使用頻度の低い熟語の読み書きや同訓異字の使い分け、ことわざの理解について、語彙の獲得や活用につながる学習活動を工夫する。
 - ・語彙の獲得につながる読書指導や、調べ学習を伴う言語活動の充実を図る。
 - ・他教科や総合的な学習の時間等の学習、家庭学習、日常生活なども含め、既習事項を活用する場面を繰り返し設定する。

【中学校数学】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題）（％）

学 年		第 1 学年		第 2 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		52.1	56.2	48.7	49.6
領域別 平均正答率	数と式	55.2	59.7	45.3	44.6
	図形	66.5	72.6	62.2	59.8
	関数	42.9	44.7	46.6	50.0
	データの活用	－	－	－	－

【令和6年度全国調査（4月実施）の課題】
A 「数と式」の文字式を用いた説明に課題がみられた。
B 「図形」の筋道を立てて考え、証明することに課題がみられた。

【本調査の状況】

- 教科平均正答率の島根県値は、第2学年は全国値並み、第1学年は全国値を下回った。
- 領域別にみると、第2学年の「図形」で全国値を上回り、第1学年の「関数」と第2学年の「数と式」が全国値並み、第1学年の「数と式」、「図形」と、第2学年の「関数」で全国値を下回った。

① 一次方程式の比例式、基本的な文字式、連立方程式を解くことは概ねできている。
② 図形の性質を理解し、そのことを利用して角の大きさを求めたり証明したりすることに改善がみられる。…B

① 数や式の意味についての理解が十分でなく、「数と式」「関数」の領域に課題がある。…A
② 式・表・グラフを関連付けて考えることに課題がある。

2 比較的できている問題

第1学年（1）

〔問題番号〕 8 「数と式」 ①
[島根県値 65.6%]
[全国値 65.4%]
〔問題内容〕
比例式を解く。
〔出題のねらい〕
比例式を比の性質を利用して一次方程式に変形し、解を求めることができるかをみる。

第2学年（1）

〔問題番号〕 2 （2）「数と式」 ①
[島根県値 58.1%]
[全国値 54.5%]
〔問題内容〕
単項式の乗法と除法の混じった式を計算する。
〔出題のねらい〕
単項式の乗法と除法の混じった式を計算のきまりにしたがって正しく計算することができるかをみる。

第1学年（2）

〔問題番号〕 11 （4）「関数」
[島根県値 52.6%]
[全国値 49.6%]
〔問題内容〕
反比例のグラフをかく。
〔出題のねらい〕
反比例の式から、そのグラフをかくことができるかをみる。

第2学年（2）

〔問題番号〕 13 （1）「図形」 ②
[島根県値 66.7%]
[全国値 61.0%]
〔問題内容〕
平行線の性質を利用して角の大きさを求める。
〔出題のねらい〕
補助線を引いて、平行線の錯角の関係を利用して角の大きさを求めることができるかをみる。

3 課題のある問題

第1学年(1)

〔問題番号〕 4 (4) 「数と式」 ㊦①	
〔島根県値〕	28.8%
〔全国値〕	28.3%
〔問題内容〕	
一次式の減法を計算する。	
〔出題のねらい〕	
一次式の減法において、計算の順序やきまりにしたがって正しく計算をすることができるかをみる。	

第2学年(1)

〔問題番号〕 7 (1) 「関数」 ㊦②	
〔島根県値〕	55.6%
〔全国値〕	64.4%
〔問題内容〕	
一次関数の表から正しいグラフを選ぶ。	
〔出題のねらい〕	
一次関数の関係を表す表から、傾きや切片の値を判断し、正しいグラフを選ぶことができるかをみる。	

第1学年(2)

〔問題番号〕 11 (3) 「関数」 ㊦②	
〔島根県値〕	41.7%
〔全国値〕	47.2%
〔問題内容〕	
比例の式から、そのグラフ上にある点を選ぶ。	
〔出題のねらい〕	
比例の式に与えられた値を代入するなどして、そのグラフの上にある点を選ぶことができるかをみる。	

第2学年(2)

〔問題番号〕 7 (2) 「関数」 ㊦②	
〔島根県値〕	69.7%
〔全国値〕	80.9%
〔問題内容〕	
一次関数のグラフをかく。	
〔出題のねらい〕	
一次関数の式からグラフをかくことができるかをみる。	

4 今後の指導のポイント

(1) 日常生活や他教科との関連を意識して学習できるようにする。

- ・日常生活と数学を関連づけた学習を設定したり、数学で学んだことを他教科で活用する教科横断的な学習を設定したりし、学習内容の理解がさらに深まるようにする。また、問題の解決につながる解き方の手順等についても、その意味を正しく理解して活用できるよう数の概念や式の働きについて具体的な場面と関連付けて学習できるよう工夫する。

(2) 一人ひとりが自分で選択して学習できるようにする。

- ・数や文字、表やグラフなど一人ひとりが考えやすい、表現しやすい方法を自ら選択しながら問題解決に取り組むことができるようにする。自分で問題の条件を変えて考える、他者の考えを参照して自分の考えを形成するなど、生徒が自分の考えをもつことができるようにし、多様な考えや表現を関連付けながら学ぶことができるようにする。その際、ICT 機器を効果的に活用する。

【中学校英語】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (％)

学 年		第 1 学年		第 2 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		48.6	56.8	44.1	52.1
領域別 平均正答率	聞くこと	57.7	64.3	47.7	54.5
	話すこと	－	－	－	－
	読むこと	48.7	59.8	47.8	57.0
	書くこと	40.3	45.5	34.8	42.1

【令和 5 年度県調査の課題】

- A 対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答することに課題がみられる。
B 与えられたテーマについて、具体的な理由や説明をつけ加えて英文を書く力に引き続き課題がみられ、無解答率が高い。

【本調査の状況】

- ・県平均正答率の島根県値は、第 1 学年、第 2 学年とも全国値を下回った。
 - ・領域別にみると、第 1 学年、第 2 学年とも全ての領域で全国値を下回り、特に「読むこと」が全国値を大きく下回った。
- ① 第 1 学年は、「聞くこと」において、短い対話の概要を捉えて適切に応答する力は概ね定着している。…A
- ② 第 1 学年は、「書くこと」において、疑問詞を用いて正しい語順で書く問題で全国値を 9.5 ポイント上回った。
- ③ 第 2 学年は、対話に合う適切な語（句）（不定詞の形容詞的用法）を用いる問題や適切な語順（that 節）に並べ替えて文を構成する問題について、全国値並みであった。
- ❶ 日常的な話題について、簡単な語（句）や文で書かれたものや図表を参考にして必要なことを読み取る力に課題がみられる。
- ❷ 文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことに課題がある。
- ❸ 与えられたテーマについて、具体的な理由や説明をつけ加えて英文を書く力に引き続き課題がみられ、無解答率が高い。…B

2 比較的できている問題

第 1 学年（1）

〔問題番号〕 2 （1） 「聞くこと」 ㊦①
〔島根県〕 61.6%
〔全国値〕 57.5%
〔問題内容〕
短い対話を聞いて、対話の最後に入る適切な文を選ぶ。
〔出題のねらい〕
対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答する力をみる。

第 2 学年（1）

〔問題番号〕 6 （1） ②「読むこと」 ㊦③
〔島根県値〕 72.8%
〔全国値〕 73.8%
〔問題内容〕
対話文が意味の通る文になるように、適切な語（句）を選び、文を完成する。
〔出題のねらい〕
不定詞の形容詞的用法を含む対話文の内容を正しく理解する力をみる。

第1学年(2)

〔問題番号〕 8 (2) 「書くこと」 ㊦②

〔島根県値〕 55.0%

〔全国値〕 45.5%

〔問題内容〕

対話文が意味の通る文になるように、単語を並べ替えて書く。

〔出題のねらい〕

Whose を含む疑問文の語順を理解し、正確に書く力をみる。

第2学年(2)

〔問題番号〕 9 (1) 「書くこと」 ㊦③

〔島根県値〕 66.2%

〔全国値〕 67.9%

〔問題内容〕

対話文が意味の通る文になるように、単語を並べ替えて書く。

〔出題のねらい〕

that 節を含む文の語順を理解し、正確に書く力をみる。

3 課題のある問題

第1学年(1)

〔問題番号〕 5 (1) ② 「読むこと」 ㊦②

〔島根県値〕 17.3%

〔全国値〕 50.2%

〔問題内容〕

対話文が意味の通る文になるように、適語を選び、文を完成する。

〔出題のねらい〕

主語が複数の場合の一般動詞の疑問文を含む対話文の内容を正しく理解する力をみる。

第2学年(1)

〔問題番号〕 7 (3) ① 「読むこと」 ㊦①

〔島根県値〕 20.7%

〔全国値〕 38.2%

〔問題内容〕

チャシに関する対話文を読み、対話の流れと資料から、適切な内容を選ぶ。

〔出題のねらい〕

日常的な話題について、簡単な語(句)や文で書かれたものを読み取る力をみる。

第1学年(2)

〔問題番号〕 6 (2) 「読むこと」 ㊦①

〔島根県値〕 43.2%

〔全国値〕 55.0%

〔問題内容〕

メールでの質問に対して、回答として最も適切な文を選ぶ。

〔出題のねらい〕

メールの要点を理解し、相手の意向に適切に応じる力をみる。

第2学年(2)

〔問題番号〕 11 「書くこと」 ㊦③

〔島根県値〕 21.8%

〔全国値〕 32.1%

〔問題内容〕

メッセージでの質問に対して、具体的な理由や説明を加えて、3文以上の英文を書く。

〔出題のねらい〕

おすすめの場所について、まとまった内容で紹介する英文を書く力をみる。

4 今後の指導のポイント

(1) 英文の読み取りにおいては、目的をもって読む活動に取り組む。

- ・比較的にまとまった量の英文の読み取りは、発問の意図を明確にするために、本文中の it や that の内容を考えさせるなど、英文を正確に読み取ることを促したり、筆者が最も伝えたい内容等について考えながら読むことができるようにしたりすることが重要である。
- ・書かれている内容に対して自分の考えを述べる活動や賛否を問う活動と関連づけることで、書き手の意図や要点、細部に注意を向けながら意図的・意欲的に読むことができるよう工夫する。
- ・指導にあたっては、分からない表現を調べる、自己表現で使用したい事柄や語(句)などを書き出す、タブレット端末を活用して音読練習を行うなど、生徒自身が学習方法を選択し、積極的に学べるような環境を整える。

(2) テーマについて事実や考えを整理し、基本的な構成に沿ってアイデアを広げながら、文のつながりを意識して書くことができるようにする。書くことへの抵抗を減らし、日常的に書く習慣を身につける。

- ・生徒にとって身近で興味のあるテーマを扱うことで、書くことへの関心を高める。
- ・書くことへの抵抗を減らすために、短い文から書くようにしたり、定型表現 (I think ~ because …) を活用して書き出しの負担を軽減したりする。また、「書けた」という成功体験を積み重ねられるよう工夫する。
- ・事実や考えを整理する際には、ペアでの対話やマインドマップを活用してアイデアを可視化するほか、ICT 機器などを活用して他者の意見を参考にすることも有効である。
- ・構成を意識した文章を書くために、事実・意見・理由・具体例などの要素を明確にさせるとともに、接続詞を適切に使用し、文のつながりを意識させる。

Ⅲ．意識調査の結果概要

1 しまねの学力育成推進プランの達成状況を把握する質問項目

(1) 授業の質の充実

- ① 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思う。
- ② 今年度の授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

【令和6年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできている」については、小中学校ともに肯定的な回答が8割を越え、全国並みである。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」については小中学校ともに肯定的な回答が8割を越え、小学校では昨年度に比べ大幅に上がっている。引き続き、自分の考えを発表したり、友達の発表を聞いたりするなどの協働的な学びの場を確保するとともに、個別最適な学びの充実を図る必要がある。
- 「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、週3回以上使用した」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに過去の調査と比べ増加しているが、全国を大きく下回っている。「児童生徒同士がやり取りする場面」や「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「デジタル教科書の活用」等、端末の効果的な活用を市町村教育委員会と共に進める必要がある。

(2) 家庭学習の充実

- ③ 学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強をしますか。
- ④ 授業で興味関心を持った内容について、自主的に調べ学習（家庭学習）を行っている。
- ⑤ 自分で勉強の計画を立てて、勉強している。
- ⑥ 先生は家庭学習の仕方についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントをしたりしてくれる。

【令和6年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する」児童生徒の割合は全国的に減少傾向にある。全国と同様に島根県も減少しており、家庭学習時間の差は縮まっていない。「家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例をあげながら教えた」と回答している学校は9割を越えており、学校は家庭学習の充実に向けて取り組んでいるが、児童生徒の学習時間の増加にはつながっていない。家庭学習の充実に向けた取組の好事例を各学校に広げ、家庭学習と授業との有機的な結び付きを図るとともに、一人一台端末の家庭への持ち帰りによる活用など、児童生徒が自分にあった学習方法を見出せるよう支援する必要がある。

(3) 地域に関わる学習の充実

- ⑦ 地域のことについて調べたり、調べたことを発表したりするなどの学習に取り組んでいる。
- ⑧ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- ⑨ 地域の行事に参加している。
- ⑩ 「総合的な学習の時間」では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる。

【令和6年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童生徒は、昨年に比べ大幅に増えた。中学校では、全国を上回り、小学校でも全国並みであった。「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」と回答した学校が小中ともに9割を越え、全国を上回っていることから、各校での地域と連携した学習の成果であると考えられる。
- 「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、小学校は全国並み、中学校は全国を上回った。肯定的な回答をした児童生徒は、小中学校ともに8割を越え、昨年度に比べ増加している。また、9割程度の学校が「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」と回答しており、各校での授業改善が、児童生徒の探究の過程をふまえた学びにつながっていると考えられる。

(4) その他

- ⑪ 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画資料などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く）。

【令和6年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」と「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」について、それぞれ3時間以上と回答した児童生徒の割合は、全国と比べ少ないが、島根県においても一定数存在している。長時間のメディア接触が学力に及ぼす影響について危惧されていることや、心と体の健康を図るために、メディアとの適切な接し方について、保護者と連携して対応していくことが必要である。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、肯定的な回答をした児童生徒は、小中学校ともに昨年度同様8割を越えている。今後も、児童生徒一人ひとりの課題等に対応したきめ細かな指導の継続が求められる。

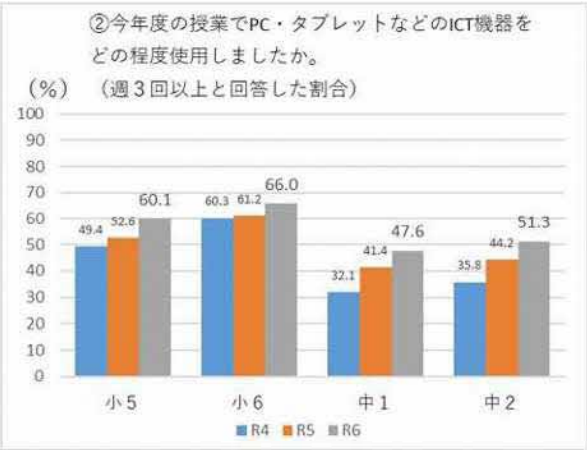
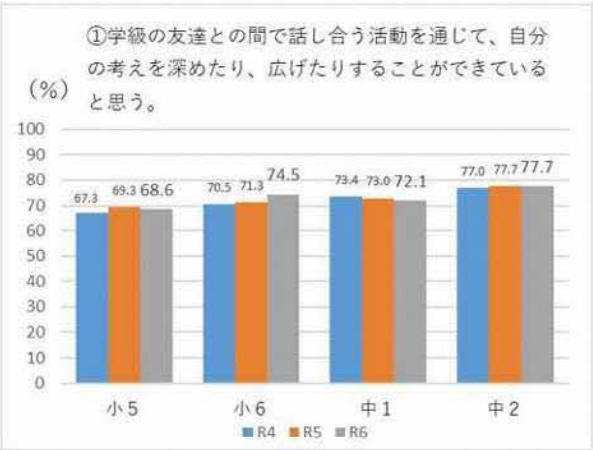
2 課題の改善状況

※数値は質問紙において「とてもあてはまる」「まああてはまる」と肯定的な回答をした割合。

※グラフの◆は、全国値を示している。◆のないグラフは県独自の設問。

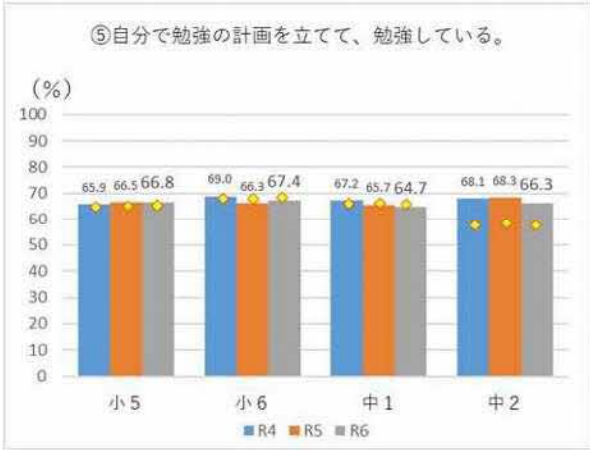
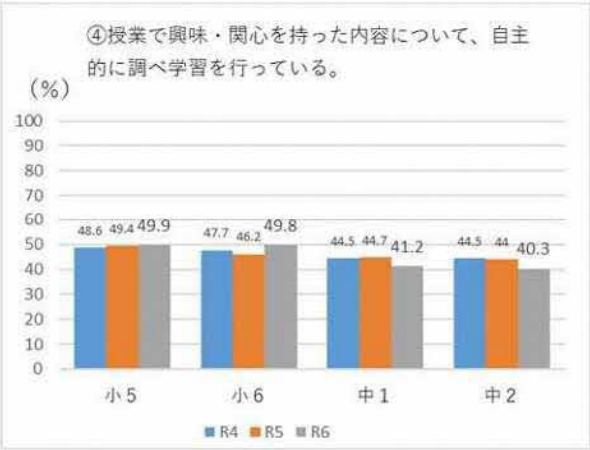
(1) 授業の質の充実

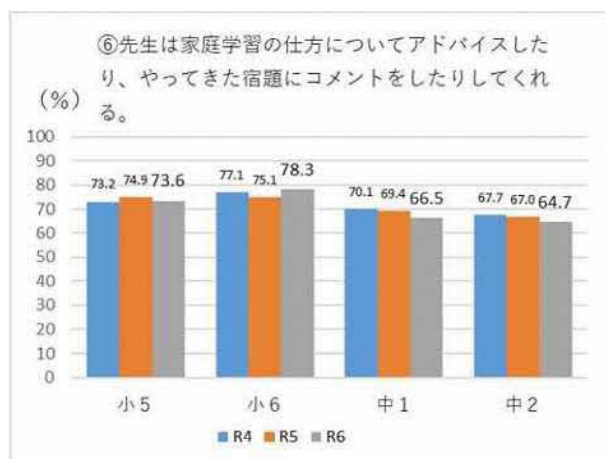
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」について肯定的な回答をしている児童生徒は、昨年度同様7割程度であるが、同一集団を比較すると年々数値が高くなっていることから、授業改善が着実に図られていることがわかる。引き続き、自分の考えを発表したり、友達の発表を聞いたりするなどの協働的な学びの場を確保する必要がある。
- 「今年度の授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度利用しましたか。」について週3回以上と回答した児童生徒の割合は、過去の調査と比べ増加しており、一人一台端末の授業での活用が進んできている。今後端末の効果的な活用を進め、「考えを共有したり比べたりする」「考えをまとめ、発表・表現する」「学習記録を活用しながら、自分のペースや学び方に合わせて学習を進める」といった個別最適な学び、協働的な学びを推進していく必要がある。



(2) 家庭学習の充実

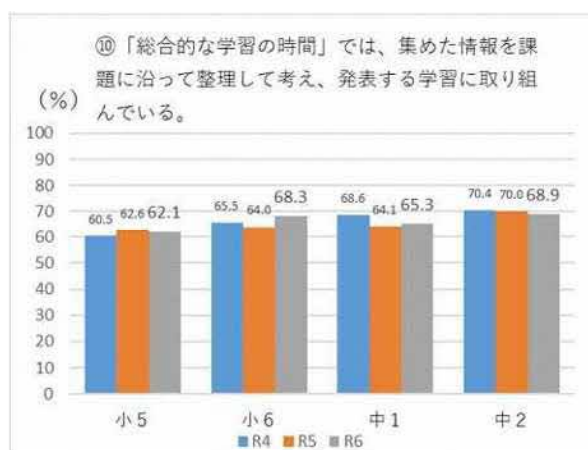
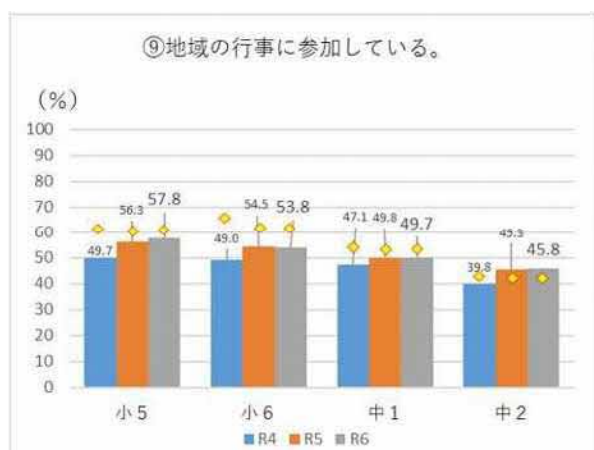
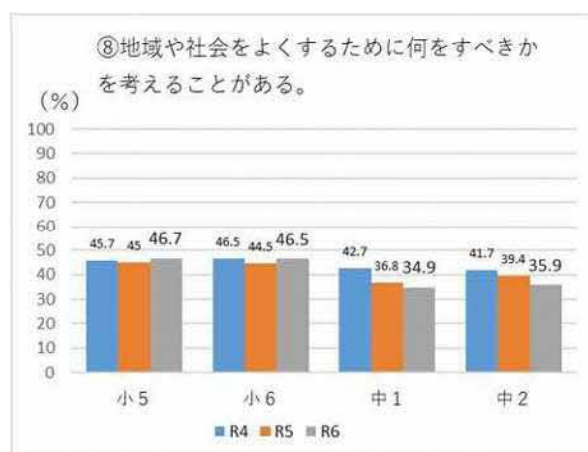
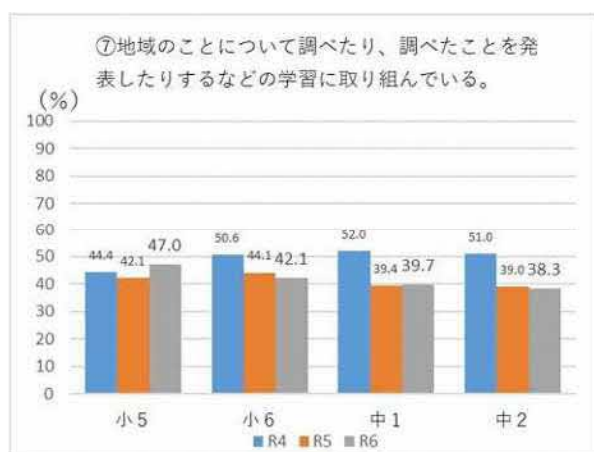
- 「学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強をしますか。」については、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は昨年度より減少している。また、「授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ学習（家庭学習）を行っている。」については、小中学校ともに5割を下回っている。今後、授業で学んだことを生かしながら、児童生徒自らが興味・関心をもって探究していく学習が求められる。
- 「自分で勉強の計画を立てて、勉強している。」については、R5 県調査と同様、全国並みである。「先生は家庭学習の仕方についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントをしたりしてくれる。」については、小学校では、肯定的な回答が7割を越えている。引き続き家庭学習について教職員同士が共通理解を図り、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導する必要がある。





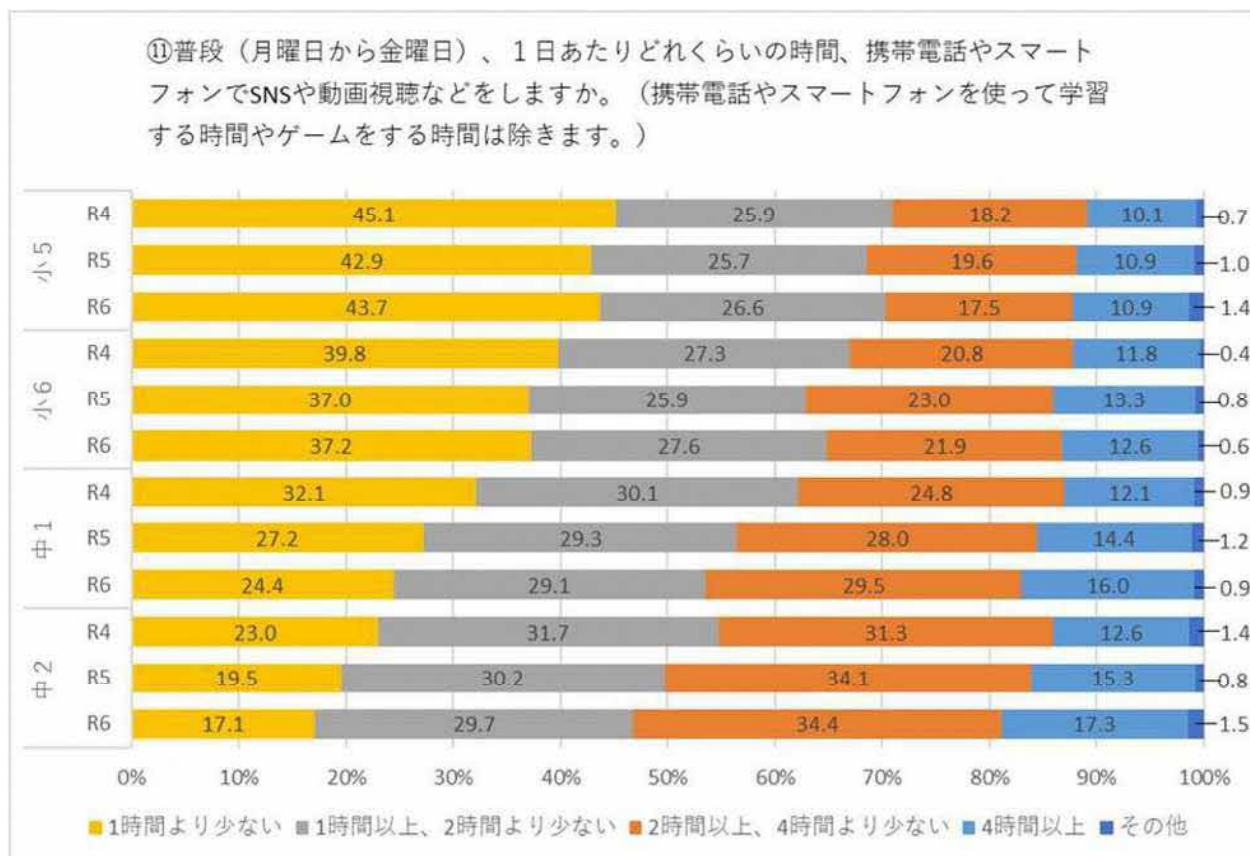
(3) 地域に関わる学習の充実

- 「地域のことについて調べたり、調べたことを発表したりするなどの学習に取り組んでいる。」については、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」「地域の行事に参加している。」も合わせ、数値が低い。ふるさと教育を通じた地域のひと・もの・ことを活用した学習、主権者教育の視点から地域に対する関わり方を考える学習を進めていく必要がある。
- 「『総合的な学習の時間』では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる」について肯定的な回答をした児童生徒の割合は、6割を越えている。同一集団を経年で比較すると、肯定的な回答の割合は上がっており、各校での授業改善が、児童生徒の探究の過程を踏まえた学びにつながっていると考えられる。



(4) その他

○「普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く）」については、学年が進むにつれて使用時間が増加している。特に長時間使用する生徒の割合が増えており、学力に及ぼす影響や心身の健康に対する影響について危惧される。メディアの適切な接し方について、保護者と連携して対応していくことが必要である。



IV 今後の取組

- 1 県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

○授業の質の充実

全国学力・学習状況調査等の各種調査の分析を参考にし、各教科等の連携を図りながら組織的かつ計画的に授業の質を充実させる。

- ・全教員が課題のあった問題を解き、ポイントや求められる力を確認後、自校の調査結果の解答類型から児童生徒のつまずきの要因を把握し、授業改善策と評価方法を協議する。これらを踏まえて改善に向けた授業を実施し、具体的な評価問題等で改善状況を検証する。
- ・自分の考えを語尾までしっかりと話すこと（説明すること）、書くことを繰り返し指導する。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、「考えを共有したり比べたりする」「考えをまとめ、発表・表現する」「学習記録を活用しながら、自分のペースや学び方に合わせて学習を進める」などで一人一台端末の日常的かつ効果的な活用を一層進める。
- ・学習指導要領の趣旨や小・中・高等学校の連続性と系統性を踏まえ、児童生徒が身に付ける資質・能力を明確にした授業を行う。

○家庭学習の充実

家庭学習と授業の学びをつなぐ工夫をし、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだせるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

- ・授業を家庭学習につなぐ具体的な指導について教員が共通理解を深める。
- ・学習内容の定着を図る宿題に取り組むだけでなく、学習計画を立て、計画に基づいて学習を実行する力を育成する。
- ・一人一台端末を活用し、AIドリルなどの個々のニーズに応じた家庭学習を充実させる。

○地域に関わる学習の充実

児童生徒一人ひとりが自ら課題を見つけ、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える力を育成するとともに、主権者教育の視点から、地域や社会に主体的に関わる実行力を養う。

- ・「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業」を行う。
- ・地域素材の効果的な活用と、各教科等で身に付けた知識や技能を地域や社会での生活に生かそうとする意欲の醸成を行う。

2 県教育委員会の取組

- ・学力育成会議等で市町村と学力育成の取組について協議するとともに、各市町村の取組や成果を各市町村・学校と共有する。
- ・「全国学力・学習状況調査」「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」「英語教育実施状況調査」等で学力育成に係る市町村の状況を把握し、支援を行う。
- ・学校全体で組織的な授業改善が進められるよう、調査結果の分析の仕方や今後の取組の設定等について、学校訪問により支援を行う。また、全国学力・学習状況調査の課題を分析し、授業や家庭学習で活用できる評価問題や授業プランを提供する。
- ・小学校低学年段階からの学習のつまずきを把握し、授業改善や学習支援に生かすための調査を実施する。
- ・課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信・配付するとともにそれらの活用を促進し、活用状況を確認する。

令和 7 年度島根県公立高等学校入学者選抜における一般選抜の受検状況について

1 学力検査日 3 月 5 日（水）

2 受検者数等の概要

	入学定員	募集定員 a	出願者数 b	欠席者数 c	受検者数 d=b-c	対募集定員競争率 d/a
全日制	5,043	3,217	2,667	204	2,463	0.77
定時制	360	360	128	6	122	0.34
計	5,403	3,577	2,795	210	2,585	0.72

(注)入学定員以外は全て、一般選抜のもの。(特色選抜は含まない。)

対募集定員競争率は、受検者数÷募集定員 により算出。

《参考：受検者数等の推移（過去 5 年）》

選抜 年度	全日制						定時制					
	入学 定員	一般選抜					入学 定員	一般選抜				
		募集 定員	出願 者数	欠席 者数	受検 者数	対募集定 員競争率		募集 定員	出願 者数	欠席 者数	受検 者数	対募集定 員競争率
R3	4,976	4,140	3,755	197	3,558	0.86	360	360	108	18	90	0.25
R4	5,140	4,246	3,842	199	3,643	0.86	360	360	140	14	126	0.35
R5	5,100	4,227	3,873	212	3,661	0.87	360	360	143	5	138	0.38
R6	5,043	4,169	3,481	186	3,295	0.79	360	360	182	18	164	0.46
R7	5,043	3,217	2,667	204	2,463	0.77	360	360	128	6	122	0.34

3 主な欠席理由

松江工業高等専門学校、県内私立高等学校等の合格による受検辞退

4 今後の日程

3 月 11 日（火） 追検査

3 月 14 日（金） 一般選抜等合格発表（10 時）

・ 10 時から各校ホームページ掲載

・ 教育指導課ホームページでは、11 時から各高校別の合格者番号一覧を掲載

・ 第 2 次募集実施校公表（10 時から教育指導課ホームページで公表）

3 月 17 日（月）～18 日（火） 第 2 次募集出願期間

3 月 19 日（水） 第 2 次募集作文・面接検査等

3 月 24 日（月） 第 2 次募集合格発表（15 時から各高校及び教育指導課ホームページに掲載）

令和7年度 島根県公立高等学校入学者選抜学力検査受検状況

島根県教育委員会 R7.3.5

			特色選抜合格内定者数				一般選抜						
学校名	学級数	入学定員	総合選抜	中高一貫 特別選抜	スポーツ 特別選抜	合計	募集定員	出願者数	実受検者数	欠席（辞 退等）者 数	実質競争率 (実受検者数÷募集定員)		学校名
											令和7年度	令和6年度	
	a	b	c	d	e	f= c+d+e	g= b-f	h	i= h-j	j	i/g	【参考】	
安 来	4	160	50	＼	12	62	98	69	62	7	0.63	0.59	安 来
情報科学	3	120	38	＼	＼	38	82	47	39	8	0.48	0.61	情報科学
松 江 北	7	280	11	＼	＼	11	269	259	242	17	0.90	0.87	松 江 北
松 江 南	7	280	58	＼	1	59	221	237	220	17	1.00	1.00	松 江 南
松 江 東	5	200	80	＼	9	89	111	132	121	11	1.09	1.01	松 江 東
松江工業	5	200	80	＼	11	91	109	127	100	27	0.92	0.78	松江工業
松江商業	5	200	88	＼	12	100	100	110	105	5	1.05	0.82	松江商業
松江農林	4	160	72	＼	＼	72	88	93	91	2	1.03	0.96	松江農林
大 東	3	90	40	＼	4	44	46	33	30	3	0.65	0.51	大 東
横 田	3	90	21	＼	8	29	61	33	33	0	0.54	0.66	横 田
三刀屋	4	160	58	＼	8	66	94	67	64	3	0.68	0.95	三刀屋
掛 合	1	40	5	＼	＼	5	35	24	24	0	0.69	0.73	掛 合
飯 南	2	80	24	19	＼	43	37	23	22	1	0.59	0.26	飯 南
平 田	4	160	59	＼	4	63	97	79	74	5	0.76	1.03	平 田
出 雲	7	280	113	＼	1	114	166	193	179	14	1.08	1.02	出 雲
出雲工業	4	160	66	＼	0	66	94	84	75	9	0.80	0.81	出雲工業
出雲商業	4	160	66	＼	＼	66	94	50	49	1	0.52	1.06	出雲商業
出雲農林	4	160	67	＼	1	68	92	71	70	1	0.76	0.58	出雲農林
大 社	6	240	76	＼	12	88	152	170	165	5	1.09	1.05	大 社
大 田	4	160	28	＼	＼	28	132	88	80	8	0.61	0.71	大 田
邇 摩	3	120	52	＼	＼	52	68	42	39	3	0.57	0.73	邇 摩
島根中央	3	105	46	＼	4	50	55	33	30	3	0.55	0.70	島根中央
矢 上	3	108	44	＼	＼	44	64	31	26	5	0.41	0.78	矢 上
江 津	2	80	32	＼	5	37	43	37	30	7	0.70	0.61	江 津
江津工業	2	80	30	＼	2	32	48	14	11	3	0.23	0.36	江津工業
浜 田	5	200	82	＼	1	83	117	110	99	11	0.85	0.75	浜 田
浜田商業	2	80	32	＼	＼	32	48	40	35	5	0.73	0.82	浜田商業
浜田水産	2	80	28	＼	＼	28	52	13	8	5	0.15	0.45	浜田水産
益 田	4	160	20	＼	＼	20	140	123	119	4	0.85	0.74	益 田
益田翔陽	4	160	70	＼	＼	70	90	47	44	3	0.49	0.67	益田翔陽
吉 賀	1	40	5	11	＼	16	24	0	0	0	0.00	0.62	吉 賀
津和野	2	80	36	＼	＼	36	44	50	46	4	1.05	0.34	津和野
隠 岐	3	90	27	＼	＼	27	63	31	29	2	0.46	0.76	隠 岐
隠岐島前	2	80	28	＼	2	30	50	20	20	0	0.40	0.40	隠岐島前
隠岐水産	2	80	29	＼	2	31	49	16	15	1	0.31	0.55	隠岐水産
県立高校 計	126	4,923	1,661	30	99	1,790	3,133	2,596	2,396	200	0.76	0.79	県立高校 計
皆美が丘女子	4	120	36	＼	＼	36	84	71	67	4	0.80	0.62	皆美が丘女子
合 計	130	5,043	1,697	30	99	1,826	3,217	2,667	2,463	204	0.77	0.79	合 計

定時制													
松江工業(定)	3	120					120	10	10	0	0.08	0.07	松江工業(定)
宍 道(定)	4	160					160	104	99	5	0.62	0.84	宍 道(定)
浜 田(定)	2	80					80	14	13	1	0.16	0.28	浜田(定)
合 計	9	360					360	128	122	6	0.34	0.46	合 計

全日制・定時制 総計													
合 計	139	5,403	1,697	30	99	1,826	3,577	2,795	2,585	210	0.72	0.76	合 計

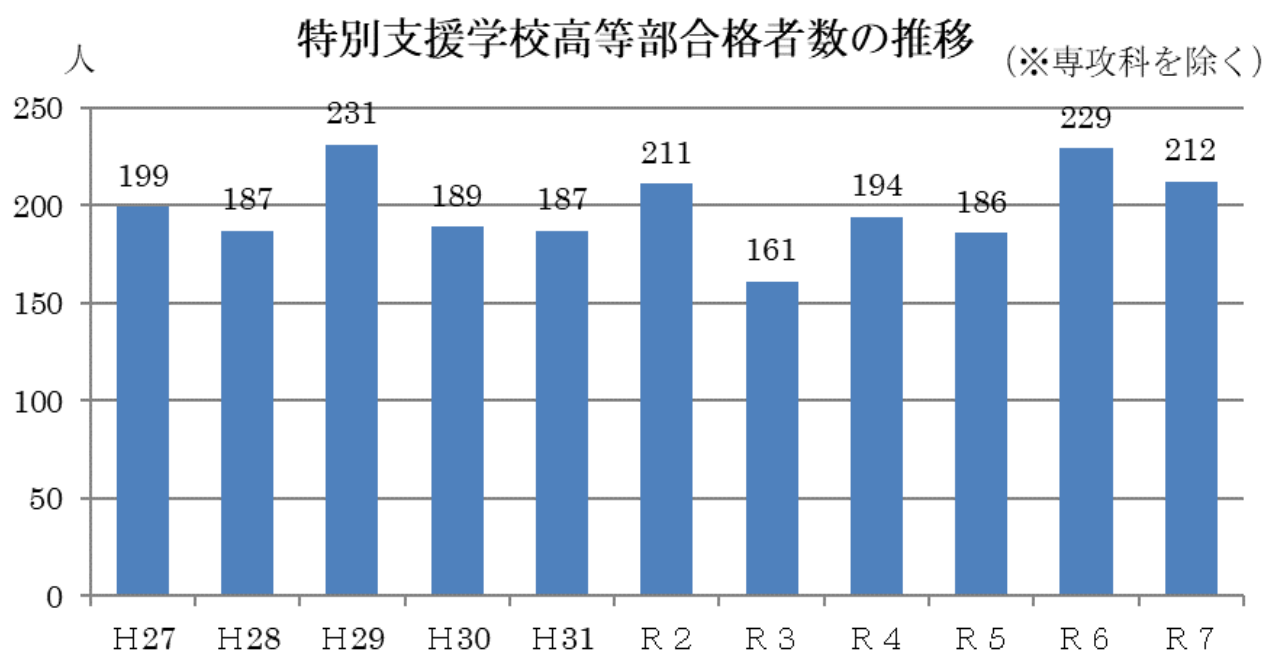
令和 7 年度 特別支援学校高等部及び専攻科の合格者数について

1 入学者選抜の概要

- (1) 検 査 日 令和 7 年 2 月 5 日（水）
- (2) 合格発表 令和 7 年 2 月 19 日（水）
- (3) 検査内容
- ・ 面 接：すべての特別支援学校
 - ・ 学 力 検 査：盲学校高等部保健理療科、専攻科理療科・保健理療科 のみ

2 合格者数

- (1) 出願者数 216 名 高等部：214 名、専攻科：2 名
 (R 6：230 名 高等部：229 名、専攻科：1 名)
- (2) 受検者数 213 名 高等部：212 名、専攻科：1 名
 (R 6：230 名 高等部：229 名、専攻科：1 名)
- (3) 合格者数 213 名 高等部：212 名、専攻科：1 名
 (R 6：230 名 高等部：229 名、専攻科：1 名)



令和7年度 特別支援学校高等部及び専攻科の合格者数

高等部						
種別	学 校 名	学 科	R7合格者(A)	R6合格者(B)	増減(A-B)	備考
障がい 視覚	盲 学 校	普 通 科	2		2	
		保健理療科				
		計	2		2	
聴覚 障がい	松江ろう学校	普 通 科	1	1		
		産業技術科	1		1	
		計	2	1	1	
	浜田ろう学校	美術工芸科		2	-2	
		生活デザイン科	1		1	
		計	1	2	-1	
知的 障がい	松江養護学校	普通科	76	76		安来分教室4名含む
	出雲養護学校	普通科	55	69	-14	邇摩分教室1名、雲南分教室1名含む
	石見養護学校	普通科	7	6	1	
	浜田養護学校	普通科	21	25	-4	
	益田養護学校	普通科	18	22	-4	
	隠岐養護学校	普通科	6	4	2	
肢体 不自由	出雲養護学校	普通科	1	1		
	益田養護学校	普通科	1	1		
	松江清心養護学校	普通科	7	6	1	
	江津清和養護学校	普通科	3	3		
病弱	江津清和養護学校	普通科	3	3		
	松江緑が丘養護学校	普通科	9	10	-1	
高等部計			212	229	-17	

専攻科						
種別	学 校 名	学 科	R7合格者(A)	R6合格者(B)	増減(A－B)	備考
障がい 視覚	盲 学 校	理 療 科		1	－1	
		保健理療科	1		1	
		計	1	1		
障がい 聴覚	松江ろう学校	産業工芸科				
		生活デザイン科				
		計				
専攻科計			1	1		

特別支援学校 合計			213	230	-17	
-----------	--	--	-----	-----	-----	--